

本部幹部会池田会長指導
(昭和43年11月27日付け聖教新聞より抜粋)

「化儀は時代に即応」 「最高の近代性誇る日蓮正宗」



「これは総本山とよく相談した結果をお伝えするわけですが、『塔婆』について一言申し上げたい。そんなことまで(笑い)、という人もいるかもしれませんが、やはり、現実問題として原則を打ち出しておきたい。
というのは、従来まで、人によっては、五本や十本も、供養してきたケースがありましたが、原則は一本でいいのです。(中略)

こういう細かなことをいうのは、大聖人の仏法が、末法万年にわたって、永遠に合理性、近代性であるからです。事実、御書をもても、塔婆を何本立てなさいという指導はいずこにもありません。(中略)

でないと、世間の人達が、日蓮正宗創価学会を、葬式仏教となりさがった既成宗教と同一視してしまう可能性さえある。わざわざ世間の人々の不信を買い、法を下げる結果を招いてしまうのです。

それから『シキミ』も品不足で値上がりし、地方によっては、手に入りにくくなった。香木である『シキミ』は色花と違って散らないし、四季を通じて常緑であることから、永遠の生命を表わすものとして日蓮正宗では用いてきた。しかしこれについても、御書には『シキミ』でないといけないとは書かれていない。あくまで後世になって、形づくられた化儀なのです。化法は御本尊に題目をあげることであり、折伏、教学が第一義であり根本である。あとは、全て化儀であり、時代に即応して、形式を変えても許されるのです。(中略)

線香とロウソクの場合も、絶対に使わなければならぬという理由はありません。

これも御書のいずこにも書いてない。病院や外国など、場所によっては、いやがられる場合もありますし、狭い部屋などではロウソクが危険な時もある。(中略)

また、念珠についても、房(ふさ)が三つついているほうが右でも左でも、どちらでも結構です。大聖人御在世のころは、両方とも二本だったのです。途中から他の影響を受けて三本になったのです。だから、どちらでもかまわないのです。

それから、仏壇についてですが、値段の高い仏壇を買わなければ信心が強盛でないという理由は決してない。それでは伽藍(がらん)仏法になってしまう。そのお金で立派な家を建ててもいい。御本尊を立派な家に御安置するという大きな意味では、立派な仏壇と同じです。(笑い)(中略)

また、先日新聞などに葬式の合理化運動の記事が出ています。そういう点も、私は大賛成です。あれは形式だけの葬式を改革しようという動きで、坊さんと呼ばないとか、死亡通知だけでよい、というような考えです。

御本尊に題目を朝晩あげて、事の一念三千の当体である我々です。死んでだれにお経を読んでもらう必要がありますか。我々こそ、葬式の最高の近代化をうたえる人であり、合理化の先駆者なのです。だから、もし葬式の改革の話が出たら、我々は賛成だ、先端をいくのだ、とっていいのです。

葬式に必ずしも御僧侶を呼ぶ必要はないのです。正宗は葬式仏教ではなく生きるための仏教です。このように日蓮正宗は、あらゆる宗教の中で最先端をいくものであり、最高の近代性をもっているのです。

これについては、総本山も大聖人の根本精神につながった考えです、とっておりました。」